

ニュース JAFIC EYE №162

8月の近海カツオ竿釣り漁場と

カツオ魚体と水揚げ状況について

【近海竿釣り船の漁場と魚体組成】

8月の近海カツオ竿釣りの漁場は、上旬に伊豆諸島近海で特大を中心とした漁場が形成されたが、中旬以降は東北沖の混合域が主漁場となった(図1)。下旬には陸寄りの釜石沖にも漁場が形成され、この漁場では極小中心の漁獲となった(図2下段)。8月の平均漁獲量は4.8トン/隻・日(延362隻)で、前年同月の9.4トン/隻・日(延べ476隻)を大きく下回った。漁場水温は、上旬は23～24℃、中旬は25～26℃、下旬は26～27℃が中心となった(図2)。前年同月下旬の漁場水温(22～23℃が中心)と比較すると、今年の8月下旬の漁場水温は高く、例年のように40°N以北、23℃以下の水温帯に北上する群はほとんどなかったとみられる。気仙沼港に水揚げされたカツオの魚体組成をみると、7月に引き続き、例年出現頻度の高い中小・中・大(体重1.8～4kg)は少なく、今年は小(1.3～1.8kg)と特大(4～6kg)が多く漁獲されており、これまでにない魚体組成となった(図3)。海域別にみると、銚子以北では沿岸寄りの漁場で小が漁獲され、比較的沖合で特大が漁獲される傾向があった。

【水揚げ状況について】

生鮮カツオ(釣り)の1～8月の全国水揚げ量は、前月に引き続き2015年以来最も少なく、13,143トンで、過去5年の1～8月の平均水揚げ量(24,500トン)の50%程度となった(図4)。月別の水揚げ量では、8月は前月(3,463トン)よりやや増加し3,484トン(過去5年同月平均の75%程度)だった(図5上段)。平均価格は、前月の322円/kgとほぼ変わらず334円/kgで、前年と同程度だった。

生鮮カツオ(まき網)の月別全国水揚げ量は、7月までは釣りと同様に過去5年平均を大幅に下回っていたが、8月は2,862トンで過去5年平均の約1.7倍の水揚げ量となった(図5下段)。8月の平均価格は230円/kgで前年同月比80%程度であった。水揚げが多かったことや小サイズの割合が

多かったことが要因となつてか、価格は低い状況が続いている。

例年、8月に漁獲される中サイズが9月も漁獲の主体となり、10月に東北海域北部の低水温域(19℃以下)まで北上するが、今年はほとんどみられない。8月に多く漁獲された小サイズは、前年8～9月は19～22℃程度の水温帯にも出現がみられた。今年8月の漁場水温は23℃以上で前年より水温の高い海域での操業となったが、今後カツオの分布域が、より餌の豊富な低水温域へ北上するのか、このまま23℃以上の海域となるのか、水温分布の季節変化と合わせて注視していく必要がある。この小サイズの群れの出現が9月以降も続けば、秋季も東北沖での漁場形成が見込まれる。ただし特大サイズは南下がはじまる時期が比較的早く、今後は小サイズが中心の漁獲になるとみられ、引き続き例年と異なる群れが漁獲対象となると推測される。

(水産情報部)

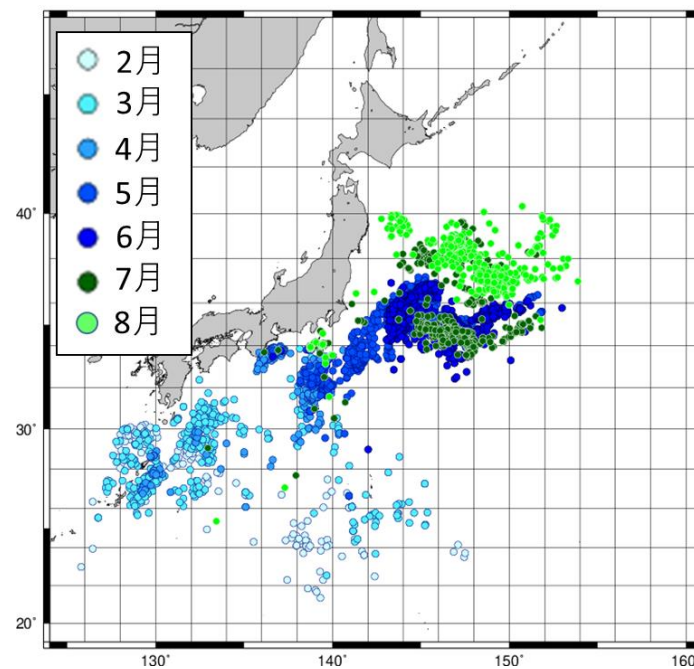
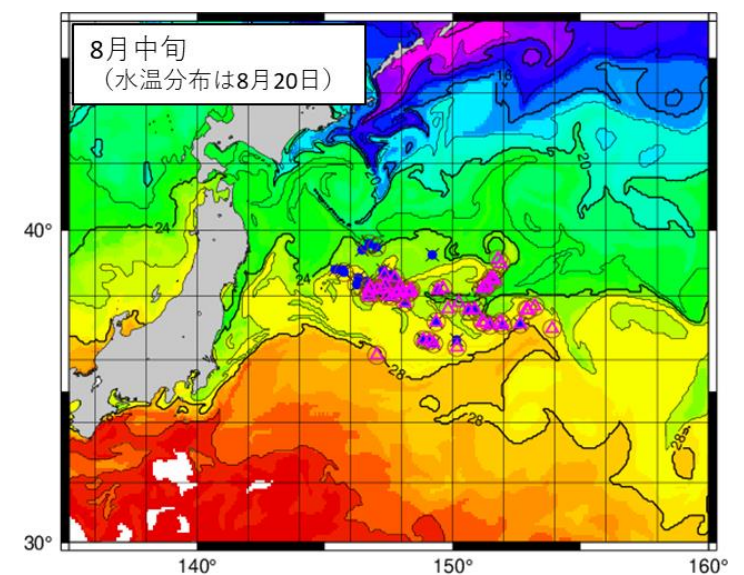
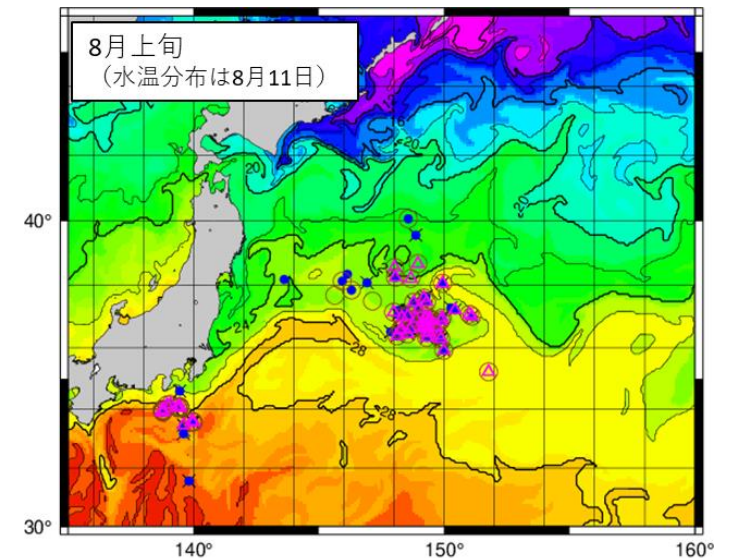


図1. 2020年2～8月の近海竿釣り船の漁場(情報収集海域全体)



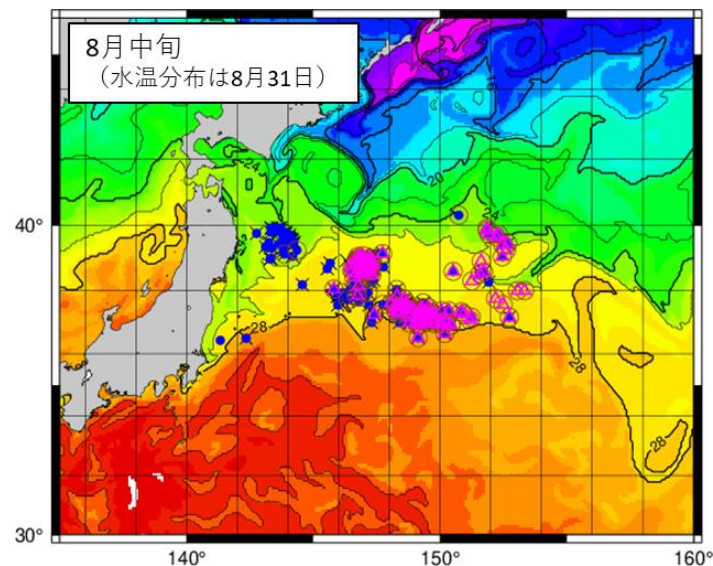


図 2. 近海竿釣り船の旬別、銘柄別の漁場位置と水温分布 (●は極小・小、○は中・大、△は特大・特特大)

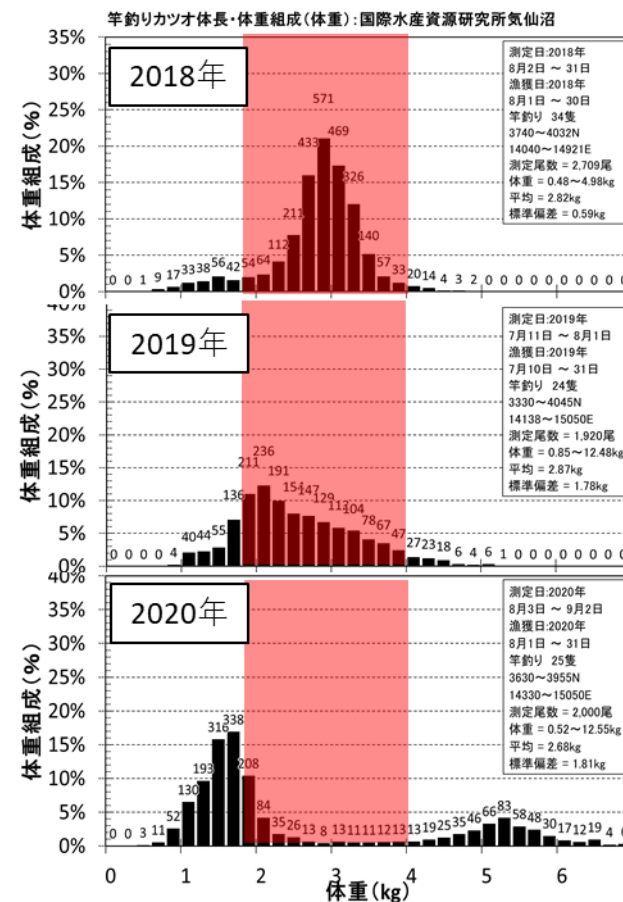


図 3. 気仙沼に 8 月に水揚げされた生鮮カツオ(近海竿釣り)の体重組成 上段 2018 年 8 月、中段 2019 年 8 月、下段 2020 年は 8 月の測定値(赤色の範囲は中小・中・大(1.8 ~ 4kg))

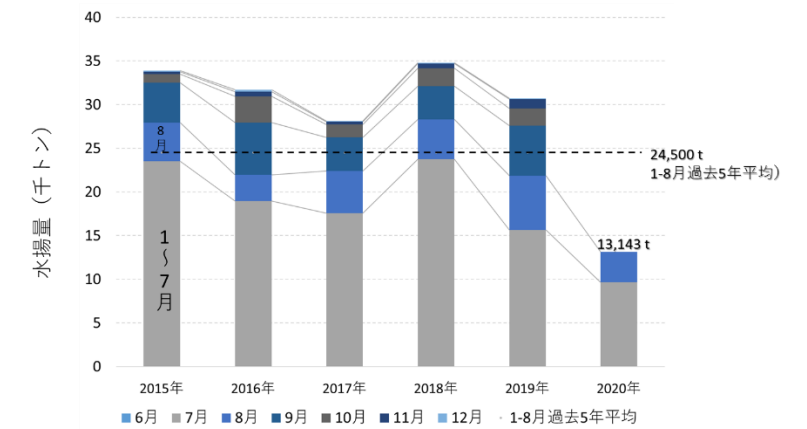
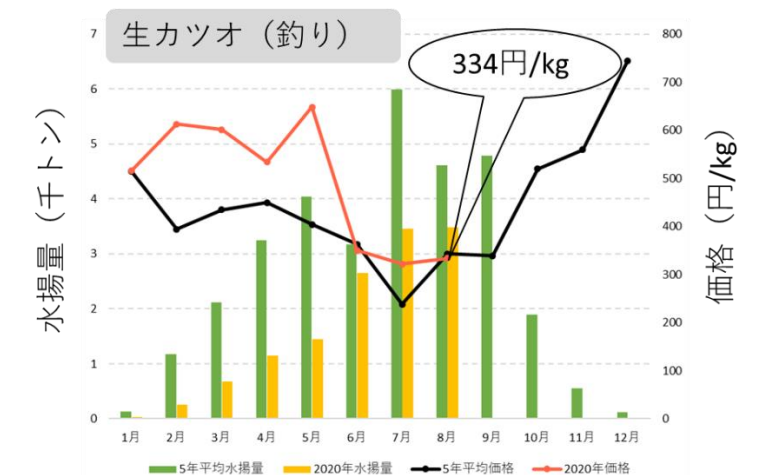


図 4. 2015 ~ 2020 年の全国生鮮カツオ(釣り)年間水揚量. (出典: おさかなひろば)



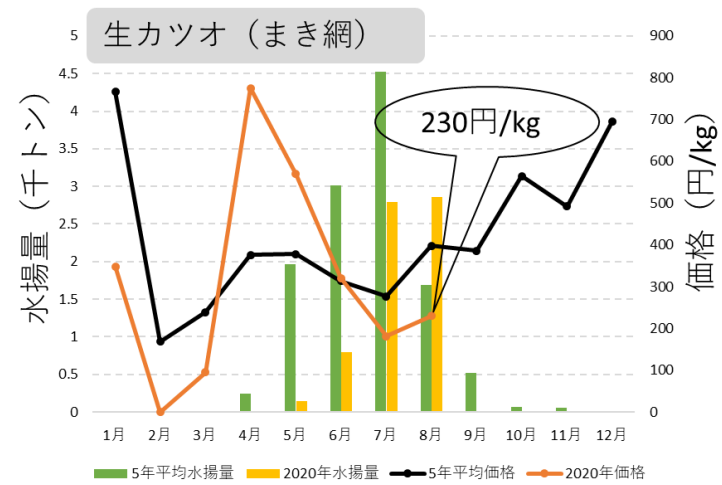


図 5. 1～8 月の生鮮カツオ(釣り)と生鮮カツオ(まき網)の月別全国水揚げ量と価格推移(出典:おさかなひろば)